

論文審査の要旨

報告番号	㊦・乙 第 2904 号	氏名	柏原 美佐子
論文審査担当者	主査 三村 洋美 副査 榊 恵子 副査 伊藤 純治		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>ケルセチンはフラボノイドの一種で、本物質の経口摂取によりアレルギー性鼻炎の症状が緩和されることが報告されているものの、その機序については不明である。本研究ではアレルギー性鼻炎ラットを用い、鼻症状の発現と関連している神経原性炎症に及ぼすケルセチンの効果を鼻汁中の神経ペプチド濃度を測定することによって検討した。</p> <p>ラットにトルエンイソチオシアネート (TDI) を点鼻し、感作ラットを作製した。感作 5 日目から 1 日 1 回、各種濃度のケルセチンをラットに経口投与、TDI を攻撃点鼻し、鼻搔並びにクシャミ回数を数えるとともに鼻汁中の SP(サブスタンス P)、CGRP(カルシトニン遺伝子関連物質)、NGF(神経増殖因子)濃度を調べた。25mg/kg 以上のケルセチンを 5 日間投与したラットでは、クシャミ回数と鼻搔き回数並びに神経ペプチドの鼻汁中濃度が対象と比較し有意に減少した。</p> <p>これらの結果はケルセチンが神経原性炎症の発現を抑制し、アレルギー性鼻炎の症状緩和をもたらしていることを明示していることから、本論文はアレルギー性鼻炎に対するサプリメントによるセルフメディケーションのエビデンスとなる新たな知見を公表おり、博士(保健医療学)の学位に値すると判定した。</p> <p>論文題名 : Suppression of neuropeptide production by quercetin in allergic rhinitis model rats (ケルセチンの神経ペプチド産生抑制作用)</p> <p>掲載雑誌名 : BMC Complementary and Alternative Medicine. 16 巻、 DOI 10.1186/s12906-016-1123-z, 2016 年</p>			

(主査が記載、500 字以内)